



6 柴田是真
《漆画帖》

一帖

明治十四年(一八八二)

紙本漆絵

各一九・一×一六・六

折本形式で十六図の漆絵が貼り込まれた画帖である。主題は様々で、鶺鴒、雀に土筆、美男葛に蝶、杜若、伊勢海老などモチーフを大きく描くほか、風景として描かれた五重塔や牛舎もあり、趣向が凝らされている。緑や朱、黒と色漆の色は限られているが、濃淡やぼかしをつけ、漆そのものもつ透明感のある茶系のさまざまな色感を生かし、墨粉や部分的には銀粉などを蒔きつけるなど、漆という素材を知り尽くした作者の高い技術が示されている。見返しには浪に千鳥の文様が砂子蒔の上に描かれる。

本作はその伝来から明治十四年第二回内国博出品作と紹介されてきたが、『臨時買上録』(明治十四年、宮内庁書陵部蔵)に所載の柴田是真の代理真哉(是真の次男)の文書により、同博覧会開催中に同事務局を通じて宮内省より注文を受けて製作され、同年の六月末に納品されたものであることが明らかになった。同内国博には是真は漆画帖を二点出品しており、これが見本となって発注されたと考えられる。十六図のうち二枚に是真七十五歳の行年書がある。

是真が漆絵の画帖を内外の展覧会に出品したのは、記録より遡ることができるとは一八七六年(明治九)のフィラデルフィア万博のことで、目録によれば『新工漆画帖 三冊 柴田是真発明』とあり、出品者は起立工商会社である。漆画帖は是真が世に示そうとした新しい技術による作品、との意識が現れている。内国博では第二回への出品に限られるが、明治十三年から十五年にかけての行年書を含む漆画帖が、本作以外にも東京国立博物館や石川県立美術館など各所に認められる。



- ・各展覧会図録中，作品名や作者，制作年などの表記は，図録発行当時のものです。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録の著作権はすべて宮内庁に属し，本ファイルを改変，再配布するなどの行為は有償・無償を問わずできません。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録（PDF ファイル）に掲載された文章や図版を利用する場合は，書籍と同様に¹出典を明記してください。また，図版を出版・放送・ウェブサイト・研究資料などに使用する場合は，宮内庁ホームページに記載している「三の丸尚蔵館収蔵作品等の写真使用について」のとおり手続きを行ってください。なお，図版を営利目的の販売品や広告，また個人的な目的等で使用することはできません。

内国勸業博覧会 ― 明治美術の幕開け

三の丸尚蔵館展覧会図録 No. 57

編集 宮内庁三の丸尚蔵館

制作 株式会社 東京美術

翻訳 横溝廣子

発行 宮内庁

平成二十四年四月二十一日発行

© 2012, The Museum of the Imperial Collections